

〒742-2922

周防大島町沖家室島481番地
(旧沖家室小学校)

TEL・FAX: 0820-78-0604

2025年3月15日発行 春号

海うさぎ

白木半島地区の最近のあれこれ

チャレンジを続けよう！ 山口県議会議長 柳居 俊学



昨年（令和6年）に、白木半島地区の皆様の待望の「地家室園地拠点施設」が、地蔵小学校跡地にオープンしました。一昨年は、沖家室中学校グラウンド跡地に「沖家室シーサイドキャンプ場」がオープンしています。

地家室の「拠点施設」は、ニホンアワサンゴの保全活動や自然体験の拠点、都市と地域の交流の拠点、さらに地域の自然・歴史・文化・暮らしを学ぶ場として、環境省と周防大島町が整備をしたもので、沖家室の「キャンプ場」は、癒し、交流の場、自然を体験する場としてオープンされました。

さらに今年には、地家室地区において、佐連アワサンゴトンネルに続き、新たなトンネルも完成の予定です。次々にこの地域の貴重な資源である自然、歴史、文化と暮らしを活かす試みが始まっています。これも、白木半島の皆様の古里を思う熱意が関係者を動かし、これらの事業に結実したのだと思います。

それに伴って、白木半島への関心も高まってきたように思います。新しくこの地に移住された若い方もいらっしゃるようで、その中で地域を担う人材も育っていると聞いています。これからますます交流・関係人口も増えて、そのことが定住人口の増加につながることを期待しています。

いま、地方創生はわが国の喫緊の課題です。周防大島にとっても切実で重要な課題です。白木半島の皆様のチャレンジが、地方で暮らす人々の励ましとなることを願っています。そのために私も皆様とともに汗を流して参ります。力を合わせてチャレンジを続けていこうではありませんか。



地家室園地拠点施設・キャンプ場1周年

早春の候となりました。お健やかにお過ごしのことと存じます。

昨年、白木半島地区において待望の「地家室園地拠点施設」、一昨年「沖家室シーサイドキャンプ場」がオープンしました。拠点施設は、ニホンアワサンゴの保全活動、自然環境や地域の歴史・文化・暮らしを学ぶ場として、キャンプ場は、癒し・自然を体験する場としてオープンされました。さらにこの両施設は、地域の交流の場、活性化の拠点となることも期待されています。白木半島に新しい風が吹き始めました。

交通インフラ整備

白木半島をつなぐ主要県道橘東和線の整備も進んでいます。令和3年に「佐連アワサンゴトンネル」が開通し、今年秋には「地家室アワサンゴトンネル」が開通の予定となっています。

白木半島の狭い県道の整備も、徐々にではありますが進んでいます。併せて沖家室大橋の修理、補強の強靭化にも取り組んでいただいている。この白木半島の交通インフラ整備にご尽力いただいている皆様に心より感謝いたします。



新しい風

多くの事業がスタートとなりました。それに伴って白木半島への関心も多く寄せられるようになりました。1/11には周防大島で農業漁業を希望されている方の就農移住ツアー（11組13名参加）が開催され、白木半島で農業をされている方の講話と耕作している畑の見学会なども町と連携して行われています。少しずつではありますが、移住される若者もありその中から地域を担う人材も生まれてきています。白木半島には、ニホンアワサンゴが群生する「奇跡の海」があり、古来より海上交通の要衝としての歴史・文化・暮らしが残っています。この貴重な資源にいま一度、目を向けてみようではありませんか。人口減少、高齢化のただ中にある白木半島ですが、これからも力を合わせて前に進んでいきたいと思います。

再起動始まる

コロナ禍も少しずつ落ち着いて参りました。コロナ禍では白木半島の各自治会・グループの活動を大幅に制限をせざるを得ない状況になりましたが、やっと再起動できることになりました。

例えば、各自治会の「盆踊り」「祭り」「敬老会」「亥の子祭り」の復活。小積地区の「管絃祭」や「地引網」。沖家室地区のお盆の「万灯会」やふか地蔵祭りの「カラオケ大会」など中止や縮小されていた行事が再起動され、活気が戻ってきました。



新しい取り組み

残念ながら大雪の影響で今年は中止になってしましましたが、県庁の中山間応援隊の皆様と地元の各グループが協働して拠点施設及びその周辺の整備活動を続けています。ニホンアワサンゴの保全、調査につきましても各グループにより積極的に取り組んでいただいています。

また、山口県東部海域にエコツーリズムを推進する会では、拠点施設周辺に2万本の水仙を植え、2/9には「水仙まつり」が賑やかに開催されました。ニホンアワサンゴを守るための陸の整備活動も幾度もされています。

さらに1/19、2/25には、地家室の石風呂伝承会の皆様によって「石風呂の入浴体験」も行われています。拠点施設では、「古墳の集い」や「戦争体験を傾聴継承する集い」も開催され多くの人が交流を深めています。これらは一例ではありますが、多くの皆様がこの白木半島をご縁として、様々な活動の取り組みが始まっています。



取り組みの紹介・初年度の状況

地家室園地拠点施設では、昨年1/19の開所以来、現時点で13,000人を超える来館者数となりました。主には、周防大島へ観光に訪れた方々のご来館をはじめ、誌面・テレビにも取り上げて頂けたこと、又、実際にご来館頂きましたお客様の口コミもあったかと思いますが、何よりも一重に地元の皆様の地家室園地拠点施設への関心の大きさのおかげとおもっておりまます。夏季には、環境省側施設も地域活動・環境学習など教育関連のイベントなど多くの方にご利用頂きました。

これからの展望

これから、地家室園地拠点施設では、色々な取り組みを新たに企画していくと考えています。今や島民を悩ませる『竹害』について知って貰ったうえで、有効活用としての『竹炭つくり』を実際に炎の勢いと熱さに驚きながら体験してもらうことで、心に残る経験になるはずです。（管理人は、二度ほど、テストしました）又、竹灯籠や、竹を使ったバウムクーヘン作りなども考えています。万能素材である竹で楽しい学びに繋がればと思います。

沖家室シーサイドキャンプ場はじめの1年

管理人 小井手さん、小川さん



取り組みの紹介・初年度の状況

こんにちは。早いものでオープンから1年が経過しました。地域の皆さんを始め、キャンプ場を応援してくださる皆さん、いつもキャンプ場運営にご理解ご協力賜り、誠にありがとうございます。おかげ様で1年間を通して、キャンプ場利用者によるトラブルは0でした。併設しております『島の直売所』では地元の方々の商品を販売しており、特に300円という格安価格でご販売いただいている薪が、多くのお客様から人気となっています。

これからの展望

季節は冬となり、キャンプ場は閑散期となって参りました。このタイミングを活かして我々はキャンプ場の“顔”とも言える芝の更新作業を行います。一旦休眠状態で黄色くなった芝がまた春先に青々とした新芽を出すよう、手入れしています。利用者様の中にはリピートでご利用いただく方も多く、中にはYouTubeで沖家室キャンプの動画を投稿されている方もいらっしゃいますので、お時間がある方はぜひご覧になってくださいね。

毎日商品を持ち帰る必要はなくなりました。直売所の出品者を募集中です

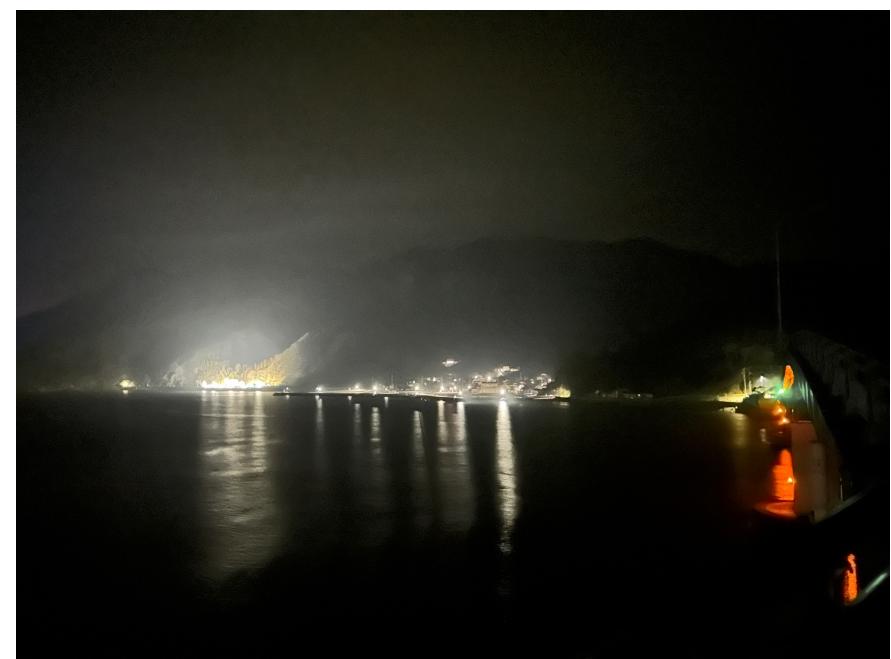


販売場所	沖家室シーサイドキャンプ場	地家室園地拠点施設
定休日	水曜日	水曜日
棚の場所	管理棟前	屋外学習広場 (自動販売機付近)
出品時間	9時～10時	9時～10時
回収時間	16時30分までに	16時30分までに
休業情報等	http://okikamuro-seaside-camp.jp/	祝日の場合は翌日は休業

【出品方法】新たに出品されたい方がいらっしゃる場合は、とりまとめを行い周防大島町に報告をする必要があるため、白木半島地区コミュニティ協議会事務局（080-4343-6055）まで①お名前と所属自治会、②出品予定の商品をお知らせください。お電話連絡をいただいた後は、各施設に直接商品を持参ください。

【おしらせ】以前は「毎日商品を持参し、営業終了前に持ち帰り」が必要となっていたのですが、周防大島町にコミュニティ協議会から要望の上、毎日持ち帰りいただく必要はなくなりました。品出しの手間が大きく削減されましたので、ぜひ出品をご検討ください。よろしくお願ひいたします

地家室トンネルの起工式が行われました。昼夜を問わず工事が進められています。



これからの白木半島。少しづつ新しい人も、育ってきました

これまで白木半島地区コミュニティ協議会では、共同で清掃活動をしたり、祭りや各自治会の行事など自治会の枠を超えて連携を進め、また、周防大島町とも連携しつつ空家空地の活用（合わせて、危険空家の調査と各自治会が連携して町に対応を要望すること等も行なっています）、定住促進に取り組んできました。

その結果、2023年度までで11組21名が周防大島に定住し、6組が起業したことに加え、関係・交流人口も増えています。2024年度に入ってもその流れは継続されており、今年だけでも5組以上が白木半島地区内に定住し、中には20代の方もいらっしゃいます。高齢化と人口減少著しい白木半島地区ですが、新しく住民になられた方の中に自治会の役員を担う方も複数名おられます。少しづつですがコミュニティの将来に向けた新しい芽が着実に育っています。